

お鶴が滝

永谷の国道十号線沿いに、お鶴が滝と呼ばれる、高さ十数メートル余りの滝があります。その昔から、水が豊かで枯れることがなく、年中水音高く流れ落ちていきます。

昔、上永谷に、お鶴さんという、気立てのやさしい、大変美しい娘さんが、住んでいました。村の若者たちは皆、お鶴さんを、お嫁にほしいと思っていました。ところが、ある夏の晴れた日のことです。お鶴さんは滝の上の岩場で、洗濯をしていましたが、ふとしたはずみに、洗濯ものが手もとを離れ、流されはじめました。慌てたお鶴さんは、前後を忘れて、足を大きく踏み出し手をさしのべて、洗濯ものをとろうとしました。そのとたん、つるりとすべって、川の中に、押し流されてしまいました。

この岩場は、年中青のりが生えていて、手がかりが、何一つないので、たまりません。アツ。という間に、真逆さまに、滝つぼに落ちてしまいました。

村人たちは、これを聞いて大騒ぎになりました。早速滝つぼや、川下の方を探しましたが、どうしても、お鶴さんを見つけることが、できません。村人たちは不思議に思いましたが、仕方なく引き上げることになりました。

それから数日後のことです。数キロ離れたとなり





村の日置の水神様の池に、息の絶えたお鶴さんが、浮いているのがみつかりました。

古老の話によると、水神様の池と、お鶴が滝の間はなぜかつながっていると、いいつたえられていたというのです。

上永谷の人々は、お鶴さんを、大変可哀そうに思い、永谷に連れて帰り、手厚く葬りました。

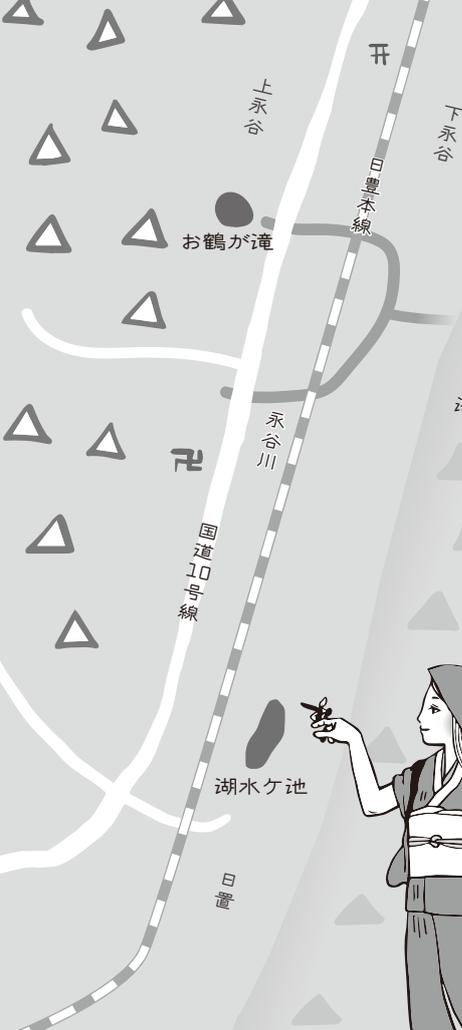
そして、滝の上の小高い丘に、祠をたてて水神様をお祀りしました。

この時から、村人達は、だれ云うとなく、この滝のことを、お鶴が滝というようになりました。

水神様は、毎年八月十五日を祭日として、お祭りするとともに、水難事故防止なども、お祈りしています。

その後、滝による水の事故など一度もなく、村人は皆平和な日々を送っています。

(採話：永谷地区 松岡政策)



たかなべ 伝・伝 Returns

について

高鍋町教育委員会では、1986年(昭和61年)から1996年(平成8年)までの約10年間にわたって高鍋の地で、昔から人々に語り継がれてきた民話・伝説や物語、加えて風俗や習慣などについて収集・記録する事業を行いました。

このたび、町制施行120周年を記念し、「たかなべ伝」所収の昔話をご紹介させていただきます。

実際の収集活動にあたっていただいたのは、高齢者のボランティアグループ「ふるさとを伝える会」の皆様です。その収集活動においては、故老のご家庭や地区をたずね歩き、話を聞きながら記録をとる、その後の整理・分類など大変なご苦労があったそうです。その成果は「たかなべむかしばなし(第1〜3集)」、「たかなべ戦中戦後の体験集」

まずは、心温まるイラストとともに、高鍋の昔話を十分に楽しんでいただければありがたいと存じます。

(高鍋町教育委員会・社会教育課)

定期的に発行します
保存してね!



「たかなべ伝・伝 Returns」の発行には、まいづるカード会のご協力を頂いています。